特集 松原病院24時間営業スーパーについてのお知らせ

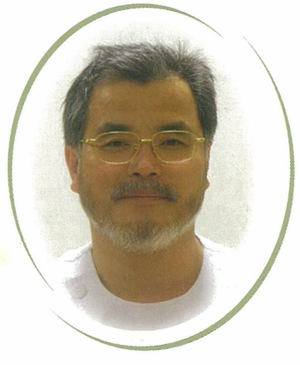
医療法人財団松原愛育会 松原病院
救急診療部長 平川 究緑

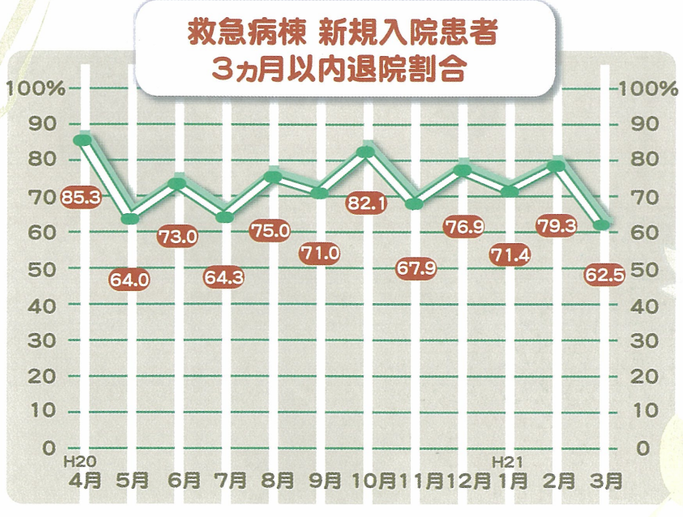
24時間営業スーパーと言っても、電飾が皓皓と照っているわけではない。新鮮な野菜・果物や鮮魚・精肉が販売しているわけでもない。大型駐車場を備えているわけでもない。

松原病院では平成19年12月より精神科救急入院料算定病棟、所謂スーパー救急病棟（48床）としての運用が本館2階で始まった。スーパー救急病棟は地域の精神科救急医療の充実を図ることを目的として、平成14年より診療報酬に位置づけられている。「隔離室・個室が病棟内病棟の半数以上」、「CT等の検査が速やかに実施できる体制」などの設備条件の他に、病棟常勤精神保健指定医1名、病院常勤精神保健指定医5名、医師配置16対1、看護配置（1日平均）10対1、病棟常勤PSW（精神科ソーシャルワーカー）2名などスタッフ条件も厳しいため、全国的にも55施設（平成21年2月現在、現在は60施設を超えていると思われる）で運用されているに過ぎない。

当院はこれまでにもミクロ救急（病院単位の救急診療）に力を入れてきており、24時間営業、年中無休のスーパーみたいなものだったが、松原病院が平成20年度より石川県精神科救急システムで基幹病院として位置づけられこともあり、マクロ救急（県単位の救急診療分担システム）という視点でスーパー救急病棟を運用していくこと、すなわち当院の通院患者だけでなく24時間対応で重症患者の受け入れが求められていることになる。

措置入院患者、医療観察法による鑑定入院患者を除く新規入院患者の6割以上を3ヵ月以内に退院して在宅へ移行させるという厳しい施設基準があるため、当院スーパー救急病棟においてはチーム医療の充実とアメニティの向上を課題として取り組んでいる。なかでもチーム医療を支える基礎として病棟カンファレンスを考えている。医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、PSW、作業療法士、管理栄養士、放射線技師、臨床検査技師、事務職員などすべてのスタッフが参加して毎朝8時30分より約30分間開催されている。入退院、転棟患者に関する報告に始まり隔離・拘束の継続可否の検討、入院後約1ヵ月を経過した患者の症例検討、病棟運営に関する提案、作業療法の報告など内容が多岐に亘っており、司会進行役の病棟看護師長、主任の各氏はてきぱきと裁いている。時として批判的、対立的なムードになりそうな時にも適宜「危機介入」して議事を進行している。お見事と言うより他はない。

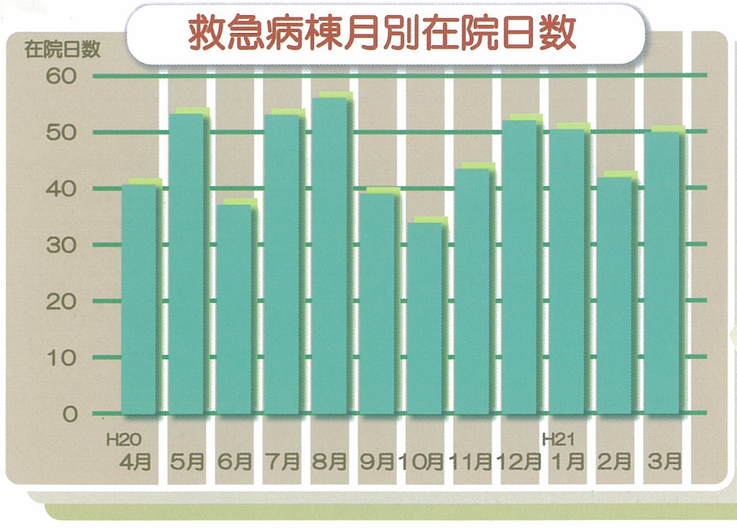




概ね発言者も短い時間内での情報交換の必要性という特性を考慮して、要点を呈示していると見受けられる。この点に関しては、私見ではあるが、むしろ医師、特に小生も含めた「ベテラン」精神科医に冗長な発言が多いと思われる。立場の異なる者との意思疎通はつくづく難しいと思う。特に隔離・拘束の開始、継続、解除の判断と合意形成で場が荒れることが多いのではないかと思う。小生自身は生来の興奮癖を抑制して、なるべく攻撃的、批判的な発言をしないように心がけているが、なかなか思い通りにコントロールできず、同僚の先生方、コメディカルのスタッフの皆さんに不愉快な思いをさせているのではと忸怩たる心境である。良好なコミュニケーションを築くことがチーム医療の根幹であり、結果的にそれが患者さんの利益につながるのだと自戒している。

24時間体制、重症患者の受け入れを確実に実行していくにはコンビニ受診の抑制、身体科救急との連携、自傷他害患者の受け入れに関する県精神保健当局、警察、消防との連携、精神科病院・診療所との連携など課題は多い。なかでも全国のスーパー救急病棟を運用している病院では、3ヵ月以内に退院・在宅移行できない患者の後方転送に支障が生じており、それは松原病院でも例外ではない。後方転送という用後は野戦病院的であるが、松原病院の夜間救急外来は正に野戦病院そのものである。

新たな救急事例への対応能力を維持していくために、他の精神科病院・診療所の通院患者さんはスーパー救急病棟で治療後は元の施設へ再紹介することを原則としているが、それでも後方転送に困難を抱えることが多い。後方転送できない限り、スーパー救急病棟の理念である24時間対応は有名無実化してしまう。社会的資源としてのスーパー救急病棟存続のために、病院の内外において後方転送を円滑に進めていくことの重要性が認識されることを心より願っている。



目次

vol.6
2009.11月

特集
松原病院24時間営業スーパーについてのお知らせ
医療法人財団松原愛育会 松原病院
救急診療部長 平川 究緑 …… 2-3
松原記念講演会 …… 4
こころの処方箋
自立就労支援センター
・訪問看護ステーション
・ヘルパーステーション
―――― オープン …… 5
「野々市 こころのクリニック」
feature KANAZAWA …… 6
こうめボランティア 東風の会
地域連携室 NEWS …… 7